



学年懇談会補足

先日は、探究発表会および学年懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。

子どもたちの成長する姿は見られたのでしょうか。

私は、子どもたちが1年生のときよりも堂々とした様子から、発表することへの意欲を感じ、うれしかったです。

まだまだ2年生なので、内容や活動の仕方について足りないところは多々あったと思いますが、今後の課題としていきましょう。

振り返りの際、保護者の皆様が、子どもたちの具体的な成長の様子や1年間を通した感想を伝えていただけたのもとてもうれしく思いました。

さて、今回は学年懇談会の中で話したいいくつかの内容について補足させていただきます。

基礎・基本の重要性とスパイラル学習

特に算数に関することです。

算数は、1年生から6年生まで、計算、図形、数の組み立て、表とグラフなどの内容が螺旋階段状に位置づけられています。

そのため、例えば2年生の「時刻と時間」が分からないと、3年生の「時刻と時間」も分からなくなってしまいます。

前学年の内容があまり関係のない社会科や理科に比べ、算数は基礎・基本学力がとても重要です。

現在、算数の授業で2年生のたしかめテストを実施しています。

持ち帰ったテストを確認していただき、もしつまづきのある単元があれば、キュビナなどで復習をすると、3年生に向けたよい学習になります。

もしキュビナが終わっている場合は、「iドリル」というサイトが復習につかえるプリントデータがあるのでおすすめです。



ギャングエイジの始まりと仲間意識

ギャングエイジとは、子どもが仲間関係を強く意識するようになる時期で主に9～12歳ごろを指します。特徴は以下の通りです。

- ・ 仲間（グループ）を作りたがる
- ・ 友達とのつながりを大切にし、親よりも友達を優先することが増える。
- ・ 自分たちだけのルールを作り、その中で遊んだり行動する。
- ・ ルールを破ると、仲間外れにすることもある。
- ・ 仲間内で秘密を共有し、大人には話さないことが増える。
- ・ グループの中でリーダー的な存在が出てくる。
- ・ その影響で、リーダーに従う人・対抗する人など役割が分かれる。
- ・ 競争や対立が生まれる (ChatGPTがまとめてくれました。便利ですね)

自己中心性の強い幼児期から成長し、社会性を身に付ける時期ですので、よく作用すると、「リーダー」が生まれ、集団が「チーム」として動き始め、悪く作用すると「ボス」が発生し、「ギャング」になってしまいます。

また、人間関係の構築の仕方、修復の仕方を学ぶ時期でもあるので、友達とのトラブルを全て大人が解決してはいけません。

相手の気持ちを思いやる必要性はしっかりと伝えつつ、ある程度の競争や対立は見守る必要があります。

(もちろん見過ごせない場合、取り返しのつかないことがおこりそうな場合は、大人として介入してください)

本当の意味での生活習慣・学習習慣の確立

就寝・起床時間が遅くなるなどの生活習慣の乱れは、小学3年生～5年生の間に始まりやすいと言われています。理由は以下の通りです。

- ・ 子どもができることが増えるので、親の管理や関心が緩み始める
- ・ ゲームやスマホの使用が始まる、時間が増える
- ・ 習い事や学習の量が増え、夕方～夜にやることが増える

どれも成長に伴うものですし、子どもの自立を促していくことはよいことです。

しかし、親の管理や補助なしでもできるようになってこそ本当の意味での習慣と言えます。

よい習慣を身に付けるのには長い労力と時間がかかりますが、悪い習慣がつくのは一瞬です。

いきなり全て任せてしまうのではなく、自分一人でもできるように、段々と手を放し、目を離していきましょう。

また、親の言うことを聞かなくなる時期も重なるため、学習習慣が抜け落ちないようにすることも大切です。